

第30回

うつのみやこども賞だより

平成25年度 7回

2013年12月1日発行

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『千の種のわたしへ』

さとうまきこ／著（偕成社）



～読んだ本の感想よ～

●ふしぎなお話だったけれど、なんとなくいつもの生活にすっと入ってくるような感じがして、とても面白かった。

●不登校ですこしネガティブな千種が、ふしぎなほうもん者たちとクスのキのおかげでだんだんポジティブになっていくのをおかした。

●千種という名は千の種という意味でいい名前だなあ、と思いました。

●千種のうきうきした気持ちと、悲しい気持ちが本の中から伝わってくるような気がした。

●お母さんはがんばっていると思いました。

●この本は、影も動物も植物も心があるということを教えてくれた。

『ストグレ!』 小川智子／著（講談社）

●光希の空手への強いおもいが、周りのみんなを変えていった。ちょっとした出来事がその後大切な山場につながるといった作りが、私はとても好きだ。

●大濱先生がわざと反則した理由をやって友達（ライバル）思いだなと思いました。ストグレの負けてたまるかという意味が好きです。

●前向きにどんどんいろんなことにぶつかって解決していくすがたが印象に残りました。

●いろいろな人の目線からお話しを読めるのでさきの会話のとき、どんな気持ちだったのかがわかっておもしろい。

『ゲンタ!』 風野潮／著（ほるぷ出版）

●最初は「なんだ入れかわりか」と思ったけどいい話だった。特に最後の一文がグッときた。歌っていいなと思った。

●ゲンタと小ゲンタが入れ替わった時、友だちが助けてくれたので、友情の大切さを改めて考えることになる本です。

●大人はなんでも勝手に決めつけるけど、大人ゲンタさんはちがって、小さなことでも真げんに考えてくれて、今どきの大人とちがうなと思った。

『かさねちゃんにきいてみな』

有沢佳映／著（講談社）

●登校班でのことしか書いていないのが面白いということと、問題児の登校班というせっていがおもしろい。

●かさねちゃんたちの言葉などで、リュウセイがもどってきてほしいという願いが強くなっていく所が残った。

●ユッキーには累ちゃんに続く良い班長になってほしいなと思いました。

●私が目指したい人は、かさねちゃんのような人がいいです。